

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fujita K,1 Harada M, Sasaki M, Yuasa T, Sakai K, Hamaguchi T, Sanjo N, Shiga Y, Satoh K, Atarashi R, Shirabe S, Nagata K, Maeda T, Murayama S, Izumi Y, Kaji R, Yamada M, Mizusawa H:	Multicentre multiobserver study of diffusion-weighted and fluid-attenuated inversion recovery MRI for the diagnosis of sporadic Creutzfeldt Jakob disease	BMJ Open Journal	in press		
三條 伸夫, 日熊 麻耶, 北本 哲之, 佐藤 克也, 新 竜一郎, 西田 教行, 山田 正仁, 水澤 英洋	プリオン病の最近の進歩 遺伝性プリオン病における病型と髄液所見	NEUROINFECTIO N	(1348-2718) 18 巻 1 号	35-40	2013.08
Takumi Hori, Nobuo Sanjo, Makoto Tomita, Hidehiro Mizusawa.	Visual Reproduction on the Wechsler Memory Scale-Revised as a predictor of Alzheimer's disease in Japanese patients with mild cognitive impairments.	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders	35 巻	165-176	2013
Maya Higuma, Nobuo Sanjo, Katsuya Satoh, Yusei Shiga, Kenji Sakai, Ichiro Nozaki, Tsuyoshi Hamaguchi, Yosikazu Nakamura, Tetsuyuki Kitamoto, Susumu Shirabe, Shigeo Murayama, Masahito Yamada, Jun Tateishi, Hidehiro Mizusawa	Relationships between Clinicopathological Features and Cerebrospinal Fluid Biomarkers in Japanese Patients with Genetic Prion Diseases	PLoS One	8(3)	e60003	2013
Sano K, Satoh K, Atarashi R, Takashima H, Iwasaki Y, Yoshida M, Sanjo N, Murai H, Mizusawa H, Schmitz M, Zerr I, Kim YS, Nishida N	Early Detection of Abnormal Prion Protein in Genetic Human Prion Diseases Now Possible Using Real-Time QUIC Assay	PLoS One	8(1)	e54915	2013
Tsuyoshi Hamaguchi, Kenji Sakai, Moeko Noguchi-Shinohara, Ichiro Nozaki, Ichiro Takumi, Nobuo Sanjo, Atsuko Sadakane, Yosikazu Nakamura, Tetsuyuki Kitamoto, Nobuhito Saito, Hidehiro Mizusawa, Masahito Yamada	Insight into the frequent occurrence of dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease in Japan	J Neurol Neurosurg Psychiatry	in press		2013
Kenji Sakai, Tsuyoshi Hamaguchi, Moeko Noguchi-Shinohara, Ichiro Nozaki, Ichiro Takumi, Nobuo Sanjo, Yosikazu Nakamura, Tetsuyuki Kitamoto, Nobuhito Saito, Hidehiro Mizusawa, Masahito Yamada	Graft-related disease progression in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease: a cross-sectional study	BMJ Open	3	e003400	2013
Zen Kobayashi, Miho Akaza, Yoshiyuki Numasawa, Shoichiro Ishihara, Hiroyuki Tomimitsu, Kazuo Nakamichi, Masayuki Saijo, Tomohiro Morio, Norio Shimizu, Nobuo Sanjo, Shuzo Shintani, Hidehiro Mizusawa	Failure of mefloquine therapy in progressive multifocal leukoencephalopathy: report of two Japanese patients without human immunodeficiency virus infection	Journal of the Neurological Sciences	324	190-194	2013
Yohsuke Yagi, Nobuo Sanjo, Takanori Yokota, Hidehiro Mizusawa	Tacrolimus monotherapy: a promising option for ocular myasthenia gravis	European Neurology	69	344-345	2013

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

発表者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	発表誌名	出版地	巻号	ページ	出版年
村井弘之, 吉良潤一	383章 プリオン病	福井次矢, 黒川清	ハリソン内科学(日本語版第4版)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	東京	2978-2985	2013
斉藤延人, 太組一朗	インシデント対策と2次感染予防	水澤英洋	プリオン病—up to date. Clinical Neuroscience	中外医学社	東京	平成25年	1044-1047
斉藤延人, 太組一朗	医原性クロイツフェルト・ヤコブ病.		別冊日本臨床新領域別症候群シリーズ No.26 神経症候群(第2版) I.	日本臨牀社	大阪	平成25年	700-702

2013 年度活動狀況

－2013 年度活動状況－

- 2013 年 4 月 24 日(水) :2013 年度第1回日本神経病理学会、プリオン剖検・病理検査推進委員会(協力, 東京)
- 2013 年 5 月 26-29 日(木-土):Prion2013(協力, バンプ)
- 2013 年 5 月 29 日-6 月 1 日(木-土):
日本神経学会(展示, 東京)
- 2013 年 6 月 6、7 日(木,金) :EuroCJD(発表, オスロ)
- 2013 年 7 月 21,22 日(日,月) :アジア太平洋プリオンシンポジウム(APPS)、アジア太平洋プリオン研究会(APSPR)(後援, 長崎)
- 2013 年 7 月 22 日(月) :プリオン病関連班連絡会議、画像合同委員会(長崎)
- 2013 年 9 月 12 日(木) :CJD サーベイランス委員会、インシデント委員会(東京)
- 2013 年 10 月 11,12 日(金,土) :日本神経感染症学会(宮崎)
- 2014 年 1 月 20,21 日(月,火) :プリオン病関連班連絡会議、画像合同委員会(東京)
- 2014 年 2 月 8 日(土) :2013 年度第 2 回日本神経病理学会、プリオン病剖検・病理検査推進委員会(東京)
- 2014 年 2 月 13,14 日(木,金) :CJD サーベイランス委員会、インシデント委員会(東京)
- 2014 年 2 月 14 日(金) :プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する全国担当者会議(東京)

プリオン病合同画像委員会 ミーティング

2013.7.21(日) ハウステンボス

プリオン病合同画像委員会(2011-)

研究責任者

佐々木真理 岩手医科大学 医歯薬総合研究所
 原田雅史 徳島大学 放射線科学
 山田正仁 金沢大学 医薬保健研究域医学系 脳老化・神経病態学
 水澤英洋 東京医科歯科大学 脳神経病態学

分担研究者

岩崎 靖 愛知医科大学 加齢医科学研究所
 宇山直人 徳島大学 放射線科学
 佐藤克也 長崎大学 感染分子解析学
 三條伸夫 東京医科歯科大学 脳神経病態学
 高尾昌樹 東京都健康長寿医療センター 神経病理学
 浜口 毅 金沢大学附属病院 神経内科
 藤田浩司 徳島大学 臨床神経科学

拡散強調画像によるプリオン病早期病変の 診断能向上に関する研究

プリオン病合同画像委員会 委員

岸田日帯 横浜市立大学 神経内科
 雪竹基弘 佐賀大学 神経内科
 坪井義夫 福岡大学 神経内科

背景

脳梗塞では、1.5 Tesla DWIのほうが3 Tesla DWIよりもよい
 Rosso, et al. Neurology 2010

1.5 Tesla DWI:薄スライス厚のほうが通常スライス厚よりもよい
 Nakamura, et al. Am J Neuroradiol 2005

3 Tesla DWI:極薄スライス厚では歪みが少ない
 Fujiwara, et al. Magn Reson Med Sci 2007

目的

- A. 1.5 Tesla DWI vs 3 Tesla DWI
- B. 従来のスライス厚 vs 薄いスライス厚
- C. 3 Tesla: DWI vs DWI+ASL(灌流画像)

対象

登録基準:以下の3項目を満たす

進行性認知症
 ミオクロース、視覚異常、小脳症状、錐体路障害、錐体外路障害の1つ以上
 CJDサーベイランスへの登録(MRI施行のあとでも可)

予定登録症例数

CJD群:30例
 CJDサーベイランス委員会でCJD「ほぼ確実例」、「確実例」と診断
 対照群:20例
 CJDサーベイランス委員会でプリオン病「確実に否定」、「ほぼ否定」と診断

【MRI撮像方法】

1) 水平断DWI

SE-EPI (single shot), b=1000sec/mm², isotropic DWI, AC-PCまたはOM line

a) 5mm厚、1mmギャップ、2NEX程度

b) 3mm厚、3mmギャップ(またはギャップレス)、4NEX程度

他の撮像条件は原則下記の通りとする(5mm厚と3mm厚で同一)。

FOV 22cm, matrix 128x80-128, TR 3000~10000ms, TE ≤ 100ms

*3mm DWIは5mm DWIと同一部位を撮像する。

*Parallel imagingが可能な装置はparallel imagingを使用する

*感度むら補正が可能な装置は感度むら補正を使用する

2) 水平断FLAIR

FOV 22cm, matrix任意, TR/TI/TE 10000/2300/100ms程度, 5mm厚, 1mmギャップ

*5mm DWIと同一部位を撮像する。

3) 水平断ASL (3 Teslaのみ・任意)

*3D-FSE pCASL, QUASAR, または3D-PACE pASLを用いる

*MRA (1.5 Teslaまたは3 Tesla)にて主幹脳動脈の閉塞・狭窄が見られない例のみ

読影実験

画像データはDICOM形式で収集

岩手医科大学、東京医科歯科大学、徳島大学で
神経内科医、放射線科医(計16名)による判定

(連続確信度法)

ROC解析

見込まれる結果

CJD診断において、以下を明らかにし診療に還元

1. 1.5 Tesla DWI、3 Tesla DWIの優劣
2. 薄いスライス厚の有用性
3. 3 Tesla ASLの有用性

登録状況

徳島大学	4例
東京医科歯科大学	2例
金沢大学	2例
美原記念病院	1例
岩手医科大学	1例
計	10例

プリオン病合同画像委員会 平成25年度第一回会議 議事録

日時：平成25年7月21日（日）18：35～18：50

場所：ハウステンボス タワーシティプラザ（APPS2013会場）

出席：岩崎靖、岸田日帯、佐々木真理、佐藤克也、高尾昌樹、浜口毅、
原田雅史（司会）、日詰正樹、藤田浩司、水澤英洋、山田正仁

議事：「拡散強調画像によるプリオン病早期病変の診断能向上に関する研究」
（別紙資料参照）について

1. 登録症例数の変更

- ・ 目標登録数を計20例に減じ、不足分（特に非プリオン病）を早急に登録
- ・ 年内を目処に読影実験を行う

【理由】 予定50例に対し現在10+ α 例だが、今年度内の成果が求められる

2. 登録条件の再確認

- ・ 画像所見が「非プリオン病」的であってもサーベイランス登録が必須

3. 撮像条件について

- ・ プロトコール（資料に掲載）通りでよい。必要に応じ事務局と連絡とる

4. 画像送付のタイミング

- ・ 撮ったらすぐに事務局（原田委員）に送る（照合できるように番号を添付）
- ・ 今までの送付状況は、事務局から各施設に確認する

5. 読影実験の方法（症例数が少ない場合の対処）

- ・ 読影スライスを限定しコントロールで使える画像を増やすことも検討
- ・ 読影者数（計画書では16名）を増やすことも検討

6. 今後の会議予定

- ・ 平成25年9月のサーベイランス委員会の際には合同画像委員会の会議なし

文責：原田雅史、佐々木真理、藤田浩司

プリオン病合同画像委員会 平成25年度第二回会議 議事録

日時：平成25年1月20日（月）17：15～17：45

場所：アルカディア市ヶ谷 6階 霧島（合同研究報告会 会場）

出席者：岩崎靖、宇山直人、岸田日帯、佐々木真理、佐藤克也、三條伸夫、
高尾昌樹、浜口毅、原田雅史（司会）、藤田浩司、水澤英洋、山田正仁

議事：

1. 「拡散強調画像によるプリオン病早期病変の診断能向上に関する研究」における読影実験について

原田委員より中間結果（徳島大学における読影実験結果）の報告がなされた。

1.5T・3TのDWI(3mmスライス)、1.5T DWI(5mmスライス)、FLAIRのうち、1.5T DWI(5mmスライス)の成績が最もよく、3T FLAIRの成績が最も悪かった。

今後東京医科歯科大学・岩手医科大学の読影者が読影を行う際、読影条件を揃えるため、徳島大学で用いたPC（ノートパソコン）を用いることとする。

徳島大学における読影実験ではarterial spin labeling (ASL) の評価を行わなかった。しかし、東京医科歯科大学・岩手医科大学における読影実験ではASLの評価も行う。具体的には、「3T DWI(5mmスライス)+ASL」の読影も行う。

現時点で登録された14症例を対象に結果をまとめる。一方、将来の追加解析に備え、今後も症例登録を継続する。

2. その他

山田委員：硬膜移植後CJD症例の画像を検討したいが、収集されているか？

佐藤委員、原田委員：上記1研究とは別に、サーベイランス症例に関して、数年前から長崎大学佐藤委員経由で徳島大学原田委員にて管理されている画像データがあり、その中に該当症例が含まれている可能性はある。

原田委員：上記に関連して、画像のデータベース化をどうするのがよいか。研究に供するにはDICOM形式でのデータ管理が望ましい。

佐々木委員：DICOMデータの院外持ち出しに関しては、費用面の解決と安全性の確立が必要である。（佐々木委員が）他の研究で運用している方式として、クラウド上にDICOMデータを管理できるプラットフォームがある。そのシステムを使用することが技術的に可能である。

文責：原田雅史、佐々木真理、藤田浩司

平成 25 年度第 1 回 CJD インシデント委員会議事録

日時：2013 年 9 月 12 日（木）17：30 - 18：30

場所：アルカディア市ヶ谷 6F 伊吹

出席者（敬称略）：北本哲之(東北大学)、黒岩義之(帝京大学医学部附属溝口病院)、
斉藤延人(東京大学)、三條伸夫(東京医科歯科大学)、太組一朗(日本医科大学武蔵小杉
病院)、田村智英子(木場公園クリニック)、中村好一(自治医科大学)、水澤英洋(東京医
科歯科大学)、山田正仁(金沢大学)

議題

1. 前回議事録を確認した（資料 1）

2. 事例検討

1) 青森 現地調査（資料 2）

資料 2-4 をもとに、平成 25 年 6 月 2 日に行われた現地調査の結果が報告され
た。平成 25 年 2 月発症の CJD 疑い症例に対して、平成 24 年 12 月 25 日に iNPH
疑いとして V-P シヤント手術が行われていた。本症例は髄液 14-3-3 蛋白・総タ
ウ蛋白測定依頼が長崎大学にあり、インシデント疑い情報を得た。サーベイラン
スが同時進行しているなか、CJD 症例と仮定して調査を行った。洗浄・滅菌の
条件は CJD 対応ではなく、手術セットは 3 セットあり、リスク保有可能性者の
候補として 32 症例がリストアップされた。インシデントの可能性が判明した後
は、適切に対応されており、さらなる 2 次感染拡大の可能性は低い。2 年前から
ディスプレイブルーバイポーラーが導入されており、感染症対策に力を注いでい
るという印象であった。

サーベイランスの結果では、CJD でない可能性が高いと判断され、とりあえ
ずはインシデント事例とはせず、現時点では告知は行わないこととなった。本症
例の CJD 可能性については、引き続きフォローアップを続けることとなった。
審議結果は、結果は 9 月 12 日に地区のサーベイランス委員に報告された。

2) 鈴鹿（資料 3）

インシデント事例ではないことが判明した。

3. フォローアップ状況（資料 3、回収資料）

資料 3 に基づき、13 事案のフォローアップ状況が報告された。このうち 2 施
設では 10 年のフォローアップ期間を終了した。

平成 25 年度第 2 回 CJD インシデント委員会議事録（案）

日時：2014 年 2 月 13 日（木）17：00 -18：00

場所：アルカディア市ヶ谷 4F 鳳凰

インシデント委員（敬称略）：

北本哲之(東北大学)、斉藤延人(東京大学)、三條伸夫(東京医科歯科大学)、太組一朗(日本医科大学武蔵小杉病院)、田村智英子(木場公園クリニック)、中村好一(自治医科大学)、水澤英洋(東京医科歯科大学)、山田正仁(金沢大学)

陪席：金光一瑛（厚労省）

議題

1. 前回議事録の確認（資料 1）
2. 事例報告
 - 1) 東北 腰部脊柱管狭窄症 硬膜は開放されておらず、インシデント事例とならなかった。
 - 2) 和歌山 腰部脊柱管狭窄症 M232R の急速進行型で probable CJD の症例。硬膜は開放されておらず、インシデント事例とならなかった。
3. 患者の手術や病理検索時における医療従事者側のインシデント対応について
(資料 2)

インシデント対応について、ペントサン・ポリサルフェートの静注の是非が検討された。①効果の有無、②迅速に対応する必要性があるのかの 2 点について、確認が必要と判断された。また、次亜塩素酸による消毒についてもその効果について、調べることとなった。イギリスでそのような対応が進歩しているので、参考にして、次回のインシデント委員会の前にリマインドして、分担して文献などを調べて見ることとなった。
4. フォローアップ状況（資料 3、取扱注意）

資料 3 に基づき、13 事案のフォローアップ状況が報告された。終了施設の最終確認の必要性が提案された。

平成 25 年度プリオン病関係班連絡会議

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班
プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発班
Japanese Consortium of Prion Disease (JACOP)

日時：平成 25 年 7 月 22 日（月）13：00～14：00）

場所：ハウステンボス タワーシティープラザ内(旧ユトレヒトプラザ)
長崎県佐世保市ハウステンボス町1-1

[1] 厚生労働省健康局疾病対策課ご挨拶（主査 岩佐景一郎 先生）

[2] 当番議長からの挨拶（当番議長：水澤英洋）

[3] 合同委員会から

1. プリオン病診療ガイドライン 2013 編集委員会（担当：水澤英洋、山田正仁）
2. プリオン病合同画像委員会（担当：原田雅史、佐々木真理）

[4] プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班から（担当：水澤英洋）

[5] プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班から（担当：山田正仁）

[6] プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発班から（担当：桑田一夫）

[7] JACOP から（担当：水澤英洋）

[8] 今後の予定（現在判明分）

平成 25 年 9 月 12 日（木）9:00-16:00	CJD サーベイランス委員会 インシデント委員会
平成 26 年 1 月 20 日（月）, 21 日（火）	「プリオン病のサーベイランスと感染予 防に関する調査研究班」および「プリオ ン病及び遅発性ウイルス感染症に関する 調査研究班」合同研究報告会（班会議）
平成 26 年 2 月 13 日（木）14:00-17:00	CJD サーベイランス委員会
14 日（金）9:00-12:00	CJD サーベイランス委員会
平成 26 年 2 月 14 日（金）午後	全国担当者会議

平成 25 年度プリオン病関係班連絡会議議事録

日時：平成 25 年 7 月 22 日（月）13：00～14：00

場所：ハウステンボス タワーシティープラザ内(旧ユトレヒトプラザ)
長崎県佐世保市ハウステンボス町1-1

[1] 厚生労働省健康局疾病対策課ご挨拶（主査 岩佐景一郎 先生）

厚生労働省健康局疾病対策課の岩佐景一郎先生よりご挨拶をいただいた。

[2] 当番議長からの挨拶（当番議長：水澤英洋）

当番議長の「プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班」の水澤研究代表者から、平成 23 年度から始まったプリオン病関係班連絡会議についてその経緯と、今年度より「プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発班」および「Japanese Consortium of Prion Disease (JACOP)」も加わったことなどの説明があった。

[3] 合同委員会から

1. プリオン病診療ガイドライン 2013 編集委員会（担当：水澤英洋、山田正仁）

プリオン病診療ガイドライン 2013 編集委員会事務局より、現在、当初の予定より遅れており、ガイドラインの発行が 2014 年 1 月頃までずれこみそうであることの説明があった。平成 25 年度中に発行出来るよう、今後の協力の依頼があった。

2. プリオン病合同画像委員会（担当：原田雅史、佐々木真理）

MRI 拡散強調画像の診断能向上を目指した読影実験を引き続き継続しているが、予定していたほど症例が集まっていないことが報告された。また、診断が困難な

症例についての画像診断のコンサルテーションが今年度はこれまで0件であるので、コンサルテーションが必要な症例があれば利用して欲しいと連絡があった。

[4]プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班から（担当：水澤英洋）

今年度のCJDサーベイランス委員会およびインシデント委員会の予定（下記）の確認があり、一部の都道府県では調査に遅れがみられるところもあり、それぞれの地区で迅速に調査を進めていただくよう依頼があった。

[5]プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班から（担当：山田正仁）

ガイドライン作成、画像診断研究といった合同委員会による研究も含めて、基礎から臨床まで広く研究が行えているが、厚生労働省より研究のスピードを早くするようという助言があった。今後も、特に治療につながるような研究も含めて、研究を推進していきたい。iPS細胞を用いた研究プロジェクトを文科省の研究チームと共同で推進しているが、感染性の問題があるため、プリオン病関連のiPS作成は、プリオンの感染実験の実績のある施設で行って頂きたいと考えており、是非自分達のところで行いたいという施設があれば研究班事務局まで御連絡頂きたいとの説明があった。

[6]プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発班から（担当：桑田一夫）

平成24年度からスタートした研究班で、P092という化合物のプリオン病に対する効果について研究することが目的である。目標としては、平成26年11月に臨床試験の戦略相談を行い、平成27年10月から第1相試験を行う予定で研究を進めている。現在までの動物実験では、特に大きな副作用は出ていないが、今年度、来年度は、更に安全性試験を行う予定である、との報告があった。

[7] Japanese Consortium of Prion Disease (JACOP)から (担当：水澤英洋)

JACOP 設立の趣旨について水澤運営委員長から挨拶があった後、事務局より、JACOP 設立の目的、調査項目、倫理審査申請状況、登録システム構築状況、患者のリクルート方法などに関して、原案を提示した。剖検を含めた支援協力、家族歴データの充実の要望などが提案された。また、ウェブサイト開設に際し、現時点でのウェブ原稿を提示し、班員に対して内容の確認の依頼があった。(JACOP 資料参照)

[8]今後の予定 (現在判明分)

平成 25 年 9 月 12 日 (木) 9:00-16:00	CJD サーベイランス委員会 インシデント委員会
平成 26 年 1 月 20 日 (月)、21 日 (火)	「プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班」および「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班」合同研究報告会 (班会議)
平成 26 年 2 月 13 日 (木) 14:00-17:00	CJD サーベイランス委員会
14 日 (金) 9:00-12:00	CJD サーベイランス委員会
平成 26 年 2 月 14 日 (金) 午後	全国担当者会議

プリオン病及び遅発性ウイルス
感染症に関する調査研究班

および

プリオン病のサーベイランスと
感染予防に関する調査研究班
合同研究報告会プログラム

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業）

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症 に関する調査研究班

プリオン病のサーベイランスと感染予防 に関する調査研究班

平成 25 年度 合同研究報告会 プログラム・抄録集

日時：平成 26 年 1 月 20 日（月） 9：30～17：15
平成 26 年 1 月 21 日（火） 9：00～17：00

場所：アルカディア市ヶ谷 6階 霧島
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
TEL:03-3261-9921, FAX:03-3261-7760

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班

研究代表者 山田正仁

事務局：〒920-8640 石川県金沢市宝町 13-1
金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）
TEL:076-265-2292, FAX:076-234-4253
E-mail: prion@med.kanazawa-u.ac.jp
<http://prion.umin.jp/index.html>

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班

研究代表者 水澤英洋

事務局：〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科学）
TEL:03-5803-5234, FAX:03-5803-0169
E-mail: prionuro@tmd.ac.jp
<http://prion.umin.jp/index.html>

平成25年度 合同研究報告会 プログラム

1日目 1月20日(月) 9:30~17:15

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者
9:30			研究代表者 挨拶 (プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 山田正仁)	
9:35			研究代表者 挨拶 (プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班 水澤英洋)	
9:40			厚生労働省健康局疾病対策課 ご挨拶	
I. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 1 (9:50~10:30)				座長: 水澤英洋
9:50	1-1	中村好一	サーベイランス結果に基づくわが国のプリオン病の実態	阿江竜介
10:00	1-2	中村好一	わが国における近年のクロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率/死亡率上昇の背景:記述疫学的観察より	中村好一
10:10	1-3	水澤英洋	わが国のプリオン病サーベイランスの状況と治験に向けたコンソーシアムJACOPへの協力体制	水澤英洋
10:20	1-4	金谷泰宏	プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究	金谷泰宏
II. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 2 (10:30~11:10)				座長: 山田正仁
10:30	1-5	北本哲之	サーベイランスの遺伝子解析と滅菌法に関する研究	北本哲之
10:40	1-6	佐藤克也	プリオン病サーベイランスにおけるヒトプリオン病の髄液中のバイオマーカーの検討と異常型プリオン蛋白試験管内増幅法(RT-QUIC法)による解析とその問題点(欧州との比較を中心に)	佐藤克也
10:50	1-7	原田雅史	sCJDサーベイランス症例を用いた1.5Teslaと3Tesla MRIの比較検討	藤田浩二
11:00	1-8	山田正仁	MM2型孤発性Creutzfeldt-Jakob病の臨床診断基準案の作成	浜口 毅
11:10-11:25	休憩			
III. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 3 (11:25~11:55)				座長: 青木正志
11:25	1-9	三條伸夫	V180I変異遺伝性CJD患者脳の免疫化学的・神経病理学的検討	日詰正樹
11:35	1-10	村井弘之	コドン180変異がコドン129Valとリンクしている遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の解析	村井弘之
11:45	1-11	田中章景	家族性Creutzfeldt-Jakob病(M232R-129M/V)の1剖検例	多田美紀子
IV. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 4 (11:55~12:25)				座長: 村山繁雄
11:55	1-12	犬塚 貴	抗NAE抗体陽性を認め橋本脳症との鑑別が問題となった緩徐進行型CJD(probable)の1例	林 祐一
12:05	1-13	西澤正豊	パーキンソニズムと精神発動性低下および声帯奇異性運動を呈し、診断に苦慮した孤発性CJDの60歳女性例	春日健作
12:15	1-14	村山繁雄	頭部MRIの異常所見を認めた半年後から認知症が緩徐に進行し、剖検にて孤発性Creutzfeldt-Jakob病MV2型と診断された一例	荒木邦彦
12:25-13:25	* プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 研究者会議(プリオン分科会) * プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班 研究者会議			
V. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 5 (13:25~14:05)				座長: 阿部康二
13:25	1-15	森若文雄	平成25年度北海道地区のCJDサーベイランス状況について	濱田晋輔
13:35	1-16	青木正志	東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況について	青木正志
13:45	1-17	武田雅俊	近畿ブロックのプリオン病疑い患者の疫学的実態	吉山顕次
13:55	1-18	阿部康二	中国四国地区におけるプリオン病サーベイランス	佐藤恒太
VI. プリオン病のサーベイランスと感染予防 Part 6 (14:05~14:45)				座長: 齊藤延人
14:05	1-19	齊藤延人	プリオン病の二次感染リスク者のフォローアップに関する研究	齊藤延人
14:15	1-20	太組一朗	脳神経外科手術器械の滅菌法 一機能外科領域に関する考察一	太組一朗
14:25	1-21	田村智英子	遺伝性プリオン病家系の未発症者に対する支援に関する考察(ケース報告)	田村智英子
14:35	1-22	古賀雄一	耐熱性プロテアーゼによるPrP ^{Sc} 分解物の感染性の評価	古賀雄一
14:45-15:00	休憩			
VII. ヒトプリオン病の病態 (15:00~16:15)				座長: 岩崎 靖
15:00	1-23	山田正仁	神経血管減圧術(Jannetta手術)を受けた硬膜移植後Creutzfeldt-Jakob病の検討	坂井健二
15:15	1-24	岩崎 靖	発症8ヶ月前のMRI拡散強調像で高信号域を認めた、MM1+2型孤発性Creutzfeldt-Jakob病の1剖検例	岩崎 靖
15:30	1-25	高尾昌樹	生前に施行したアミロイドPET(11C-PIB,11C-BF-227)と神経病理所見とを比較できたGerstmann-Sträussler-Scheinker病P102L-129Mの1例	高尾昌樹
15:45	1-26	坪井義夫	孤発性Creutzfeldt-Jakob病の臨床症状を呈したアルツハイマー病の臨床・病理学的検討	木村 聡
16:00	1-27	浜口 毅	硬膜移植後Creutzfeldt-Jakob病剖検脳におけるアミロイドβ蛋白の沈着	浜口 毅
VIII. プリオン病の診断法の開発 (16:15~17:15)				座長: 佐々木真理
16:15	1-28	佐々木真理	早期プリオン病におけるMRI拡散異常域の経時的変化に関する客観的評価法の検討:画像信号値規格化を組み込んだ拡散異常域定量化手法の開発	山下典生
16:30	1-29	西田教行	ヒトプリオン病のdefinite casesにおける髄液中のバイオマーカーの検討と異常型プリオン蛋白試験管内増幅法(RT-QUIC法)による解析と早期における髄液中のバイオマーカーとRT-QUIC法の有効性の検討	佐藤克也
16:45	1-30	竹内敦子	Cell-PMCA法を用いたヒトプリオンの増幅	竹内敦子
17:00	1-31	堀内浩幸	認知症患者の血清H-FABPの有用性について	堀内浩幸
17:15 終了	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班:発表時間 15分(発表10分、質疑応答5分) プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班:発表時間 10分(発表7分、質疑応答3分)			

平成25年度 合同研究報告会 プログラム

2日目 1月21日(火) 9:00~17:00

開始時間	演題番号	研究者名	演題	演者
IX. プリオン病の分子病態と治療法開発 Part 1 (9:00~10:15)				
				座長: 坂口末廣
9:00	2-1	八谷如美	正常プリオンタンパク質依存性神経細胞死機構の解析	加藤大樹
9:15	2-2	作道章一	プリオン蛋白質が細胞周期関連遺伝子実現に与える影響の解析	松田 盛
9:30	2-3	桑田一夫	プリオン蛋白質が形成するアミロイド線維の構造とダイナミクス	桑田一夫
9:45	2-4	鈴木元治郎	酵母を用いたプリオン病伝播機構の解明	鈴木元治郎
10:00	2-5	桶本(中村)優子	非定型BSEに関する解析 - 定型および非定型BSE解析系の樹立の試み -	桶本(中村)優子
10:15-10:30	休憩			
X. プリオン病の分子病態と治療法開発 Part 2 (10:30~11:45)				
				座長: 堂浦克美
10:30	2-6	毛利資郎	Bank vole (<i>Myodes glareolus</i>) 遺伝子導入マウスへのプリオン伝達試験	毛利資郎
10:45	2-7	坂口末廣	プリオン感染による細胞膜蛋白質の輸送障害は選択的であり、発症前に起こる	坂口末廣
11:00	2-8	横山 隆	異常プリオン蛋白質の性状解析に関する研究: 羊体内における複数のプリオン株の共存	横山 隆
11:15	2-9	堂浦克美	プリオン病の治療予防に関する基礎研究	堂浦克美
11:30	2-10	堀内基広	PK処理を用いない、抗プリオン活性を有する薬剤のハイスループットスクリーニング系の構築	堀内基広
XI. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)のサーベイランスと臨床病態 (11:45~12:30)				
				座長: 岡 明
11:45	2-11	岡 明	亜急性硬化性全脳炎の全国サーベイランス調査の進捗状況	岡 明
12:00	2-12	野村恵子	亜急性硬化性全脳炎に対するリハビリ治療に関する全国調査	野村恵子
12:15	2-13	砂川富正	亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の発生状況(続報) - 特定疾患治療研究事業データの解析 -	砂川富正
昼食 * プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班 研究者会議(SSPE分科会・PML分科会)				
XII. 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)の病態解明と治療法開発 (13:30~14:45)				
				座長: 細矢光亮
13:30	2-14	長谷川俊史	亜急性硬化性全脳炎における髄液および血清中MAP2濃度の検討	松重武志
13:45	2-15	楠原浩一	SSPEにおけるNectin-4/PVRL4遺伝子の検討	楠原浩一
14:00	2-16	堀田 博	SSPE-Kobe-1株の神経細胞への感染	伊藤正恵
14:15	2-17	柳 雄介	麻疹ウイルスの膜融合能と神経病原性	柳 雄介
14:30	2-18	細矢光亮	リハビリ代謝物、1,2,4 triazole-3-carboxamideの麻疹ウイルスに対する抗ウイルス作用	宮崎恭平
14:45-15:00	休憩			
XIII. 進行性多巣性白質脳症(PML)のサーベイランスと臨床病態 (15:00~16:15)				
				座長: 西條政幸
15:00	2-19	西條政幸	日本における進行性多巣性白質脳症の臨床的・疫学的特徴	西條政幸
15:15	2-20	三浦義治	髄液JCV-PCR検査依頼時の調査用紙に基づいたPMLの症状、画像、検査、基礎疾患、薬剤誘発因子の検討 (3)平成25年度報告	三浦義治
15:30	2-21	水澤英洋	HIV非感染性、Natalizumab非関連性の炎症性PMLの53歳男性例	喜納里子
15:45	2-22	央戸-原 由紀子	炎症を伴った進行性多巣性白質脳症: Inflammatory PML or PML-IRIS?	央戸-原 由紀子
16:00	2-23	雪竹基弘	進行性多巣性白質脳症(PML)診療、1年間の進歩 - Natalizumab-Associated PML 発症の予見因子やMRI画像の特徴など -	雪竹基弘
XIV. 進行性多巣性白質脳症(PML)の病態解明と治療法開発 (16:15~17:00)				
				座長: 長嶋和郎
16:15	2-24	澤 洋文	JCVウイルスのコードするagnoproteinのviroporin活性発現メカニズムの解明	大場靖子
16:30	2-25	長嶋和郎	OligodendroglialにおけるJC virus感染許容細胞の検索および特異的因子の同定	加藤容崇
16:45	2-26	奴久妻聡一	TNF- α によるJCウイルスDNA複製の促進とDPQの複製抑制効果	奴久妻聡一
17:00 終了	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班: 発表時間 15分 (発表10分、質疑応答5分)			

プリオン病及びサーベイランスと
対策に関する全国担当者会議

研 究 報 告

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班

平成 25 年度
プリオン病のサーベイランスと
感染予防に関する全国担当者会議

日時：平成 26 年 2 月 14 日（金曜日）13：00～16：00
会場：アルカディア市ヶ谷 6 階 「阿蘇」
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
Tel：03-3261-9921 Fax：03-3261-9931

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班

研究代表者 水澤 英洋

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科）

TEL：03-5803-5234 FAX：03-5803-0169

E-mail:prion@tmd.ac.jp

<http://prion.umin.jp/prion/index.html>

共催：プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班